

任意接種

11 不活化ワクチン

肺炎球菌 (7価結合型)

肺炎球菌ってなあに?

肺炎球菌は、インフルエンザ菌とならんで子どもの化膿性髄膜炎や敗血症といった侵襲性感染症の原因菌として知られています。その他にも、肺炎や気管支炎、中耳炎などを起こします。インフルエンザ菌に比べて頻度は低いですが、同様に病原性が強く、化膿性髄膜炎を発症するてんかんや精神発達遅延などの後遺症を残したり、死に至ったりする場合もあります。初期の段階ではかぜと区別がつきにくく、生後3カ月～5歳ぐらいでは重症化することも多いです。

7価肺炎球菌結合型ワクチンは、従来から成人に使用されているワクチンとは異なり、子どもが重い病気を起こす原因となる肺炎球菌のうち、7つの血

清型で起こる重症感染症の約70%以上を予防することができます。日本においては2010年2月より導入されました。米国ではこのワクチンが導入されてから、肺炎球菌が原因とされる2歳未満の化膿性髄膜炎や敗血症が69%も減少しました。現在、世界98カ国で使用され、うち45カ国では定期接種として導入されています。



接種を受ける時期と間隔は?

いつ罹患するかわかりませんので、できるだけ早く接種しましょう。

●対象者年齢:生後2カ月～9歳以下

① 標準的な接種方法

[初回接種]

●接種開始年齢

生後2～7カ月未満

●回数

27日間以上の間隔で3回の皮下注射
※3回目接種については生後12カ月になる前までに完了する

[追加接種]

3回目接種から60日間以上の間隔をおいて1回の皮下注射
※標準として生後12～15カ月の間に1回接種します

② ① の期間に接種できなかった場合

●接種開始年齢

生後7～12カ月未満

[初回接種]

27日間以上の間隔で2回の皮下注射

[追加接種]

2回目の接種後60日間以上の間隔で、生後12カ月を越えてから1回の皮下注射

●接種開始年齢

1～2歳未満

60日間以上の間隔をあけて2回の皮下注射

●接種開始年齢

2～9歳以下

1回の皮下注射



肺炎球菌ワクチンの副反応は?

●海外からの報告も含め、接種部位が赤く腫れる(10～20%)、発熱(15

～24%)等がありますが、重篤例の報告はまれです。